

# 雑学 鳥獣植物戯詩

全24回

八木幹夫

## 第24回 【宇宙そらの微塵みじん、ウイルス】

モデルナ、ファイザー製を2回ずつ四回目の接種。その二週間後に家人が風邪をひいたと病院に行き、コロナに感染したことが判明。ワクチン接種直後のことだ。ともに七五歳を越えているので高齢者扱い。まるで騙された気分。日本人はアメリカ製ワクチンの実験動物なのか。PCR検査を受けた家人は帰宅早々、一室に隔離。朝昼晩の食事作りが逆転。早く治癒してほしくて妻の好みに頭をめぐらせた。二階の部屋とトイレは他の家族は使用禁止。10日間の謹慎を経て、ようやく回復。軽かったのか、同居人に被害はなかった。

かくしてコロナウイルスは我が家の忌むべき病原菌として扱われたが、本来ウイルスそのものが地球上に存在しなければ、今日ある生命体が進化して来なかったという。大繁殖のお陰で、私たちは土中のバクテリアや昆虫や植物や動物たちに巡り合うことができたのだ。いつの日か土か海に帰る時、新たなウイルスとしてどこかの星でよみがえるのだろうか。宮沢賢治は「このからだそらのみじんにちらばれ」と壮大な言葉を残したが、賢治も妹トシも結核ウイルスに斃れたのである。